

日 時：平成30年7月31日（火）
19時00分～20時35分
場 所：市役所北館2階 202会議室

出席委員：大重委員、旭委員、栴田委員、三戸委員、中谷委員、鏑委員、西田委員、平尾委員、
石松委員、北野委員、山本委員、大門委員、今西委員

事務局：【健康福祉部長】篠原部長 【健康課】 恵谷課長、西川参事、有吉係長、上田企画主査、
大森企画主査、柴田主任管理栄養士

（事務局）宗像市健康づくり推進協議会規則第5条第2項により、現在、委員15人のうち12人の参加があるので、会議は成立。（西田委員「6報告事項」より出席）

1. 開会あいさつ
（大重会長よりあいさつ）
2. 委嘱状交付
（任期中の異動等により交代委員に対し、市長に代わって健康福祉部長より委嘱状交付）
3. 委員紹介
（着席順で自己紹介）
4. 職員紹介
（市職員自己紹介）
5. 議事録署名人について
（大重会長）議事録署名人について、委員名簿順に、三戸委員、中谷委員の2名を提案したい。
⇒承認
6. 報告事項
 - (1) 市健康づくり事業について 【別添1】 【別添2】
（大重会長）市健康づくり事業について事務局から説明を。
（事務局：有吉係長）市健康づくりは、保健師5人、管理栄養士5人の体制で行っている。住民健診、健康づくり事業については、別添1「平成30年度宗像市住民健診のご案内」と、別添2の「むなかた健康づくり情報誌いきいき」を3月中旬に全戸配布し、市民に周知している。
（別添1、別添2を説明）この他に、食育については市食生活改善推進会が地域活動を担っており、また、ロコモティブシンドローム予防のために、ロコモ推進員を養成し、活動支援している。また市全域で健康のためのニギニギ体操の普及に努めており、昨年度、DVDの制作・配布とニギニギ大会を開催した。また、地域での健康づくりを支援するため、コミュニティセンターなどの運動教室へ講師派遣などを行っている。
（大重会長）質問があれば挙手を。
⇒特になし

(2) 自殺対策計画について 【資料3】

(大重会長) 事務局から説明を。

(事務局：大森企画主査) 自殺対策計画は、平成30年度中に策定する。この計画は、国の自殺対策基本法に基づき、市に作成が義務付けられている。自殺対策計画の概要、策定スケジュール等については、資料3のとおり。宗像市の現状等は、平成28年までの過去5年間の自殺者数100人、年間平均20人となっている。人口10万に対する自殺率は、20.7で、全国の19.6を上回っている。

(大重会長) 質問があれば挙手を。私から、宗像市の福岡県内での順位が知りたい。

(事務局大森) 宗像市は平均より少し上位にいる。また、全国よりも上回っている。

(大重会長) 資料参考①自殺の背景にある要因の図の矢印の方向等に意味があると思うので、説明して欲しい。

(事務局大森) この図は、自殺の要因は一つではなく、様々な要因が複合的に連鎖して起きることを示している。例えば、中高年であれば、失業を発端に、生活苦、家族不和、うつ状態などに発展し、自殺につながっている。

7 協議事項

(1) H29年度を取組状況および今後の取り組みについて 【資料4】

(大重会長) 事務局から説明を。

(事務局柴田) 昨年度の取り組みについては資料「第2次健康むなかた21」及び「第2次健康むなかた食育プラン」計画概要版にある施策ごとの「具体的な取り組み内容」に沿って、市・関係団体の取組み概要を紹介(資料4を説明)。

(大重会長) 次に、各団体から取組状況について報告を。

(委員) 食生活改善推進会は、以前から宗像の郷土料理の普及に取り組んでおり、小中学生や、PTAの方を対象にした郷土料理教室を開催している。また、去年は、世界遺産登録記念ドラマの「あなたがここにいるだけで～むなかた三姉妹物語～」という番組のスタッフに郷土料理を紹介したところ、ドラマ中の食事シーンで採用され、嬉しかった。昨年福岡県で『全国高等学校家庭科実践研究会』が開催され、道の駅むなかたで地産地消の研修があり、玄界灘の海の幸を使った魚のさばき方の実習を玄海料理人会の長井料理長が指導した。食進会は、その他の郷土料理の調理担当で、市が作成した郷土料理レシピカードと合わせ、全国の高校の家庭科の先生方に紹介した。これからも、「私たちの健康は私たちの手で」を合言葉に、地域でのボランティア活動を続けたい。

(委員) 医師会は、医師会病院で、糖尿病教室、健診センターでの人間ドック、健康教室、市の特定健診を通しての疾病の早期発見に取り組んでいる。学校では、小学校1年生、中学校1年生に心臓検診を実施し、そこで、肥満・やせの児童生徒を抽出して指導を行っている。医師会内での情報交換をするほか、歯科医師会、薬剤師会との合同勉強会を行い情報交換に努めている。また、糖尿病性腎症重症化予防の取組みとして、市と糖尿病患者とかかりつけ医の連携を進めている。

(委員) 歯科医師会は、約20年前から「宗像めざせ!8020」を行っており、現在、600人以上の参加がある。イベントのメインは、親と子の良い歯のコンクールで、(表彰者は)三歳児健診受診者から選んで案内している。また、保育園、幼稚園、市役所などに(イベントの開催について)案内している。

他には、市内身障者3施設、はまゆうワークセンター、くすの木園、緑ヶ丘学園での健診、小学校、保育園、幼稚園でのブラッシング指導、離島での歯科検診を実施している。

(委員) 小中学校では、PTAとタイアップし、「早寝早起き朝ごはん」運動を進めて、生活リズムを作ったり、健康意識を高めたりしている。心の健康については、(子どもたちの) 自尊感情を高める授業を行ったり、子どもたちに、市子ども家庭相談室、ハッピークローバーの紹介をしたりしている。食育については、食生活改善推進会の方から紹介があった活動の他に、市の商工観光課とタイアップして、パンフレットづくりの指導を受け、市の施設に作ったものを置かせてもらうなどの活動を行っている学校もある。

(委員) (小中学校では) 心の健康づくりについて、生活アンケート、いじめアンケートなどを年間2回行い、その中で気になることがあれば、教職員連携して対応している。相談ポストを設置して対応している学校もある。スクールカウンセラーやハッピークローバーの活動等が子どもたちに身近になり、相談体制が充実してきたと感じる。

(委員) (栄養士会は) 歯科医師会の「宗像めざせ!8020」に協力して、去年は、歯と食生活についての展示・試食と、歯に良い給食レシピの紹介を行った。

(委員) 福岡県は、県民一人ひとりが地域の中で健やかで心豊かに過ごすことができる福岡県を目指し、県の重点事業として、県民健康会議を立ち上げた。会議の構成団体は、保健・医療関係団体だけでなく、経済団体、労働組合もあり、共に健診受診率の向上や、企業の健康づくり宣言などの取組みを進めていく。また、県の健康ポータルサイトはリニューアルし、活用促進を図っていく。

(委員) 商工会の講演会で心のケアの話の聞いたり、ストレッチ体操で腰痛予防のための体のケアについて学んだりしている。身近なところでは、ボウリング部を立ち上げて月1回練習し、爽快な汗を流して仲間とのつながりで心と体の健康を維持している。また、一昨年は、県大会で優勝するなど好成績をあげている。

(委員) (漁業協同組合の) 地産地消の取組みは、岬にある活魚センターや鐘崎漁港などで魚に関するイベントを行い、毎回1,000人程度の来場があった。また、あなごの普及を行っており、35店舗で「あなごちゃん祭り」を行った。昨年、古賀サービスエリアのレストランで宗像産の真鯛、穴子、わかめを使用したメニュー「むなかた三昧丼 ～鯛茶漬け・穴子天井・鶏すき丼～」が発売され、グルメ決定戦にも参加して、九州ブロック大会で優勝した。

(委員) NPO 法人むなかた子育てネットワークこねっとは、市と協働して子どもの遊びの場の提供、子育ての悩み相談などを行っている。悩み相談などは、必要に応じ子ども家庭課と連携している。交流室の利用は、子ども9,756人、大人8,698人、合計18,454人。交流室での子育て件数5,008件。市とともに開催している子育てサロンでは、乳幼児とその保護者に子どもの発育、生活習慣の形成、さらに、子どもとメディアの関わりについて学ぶ場を提供するほか、保護者むけのストレッチ体操、ストレスケアのミニ講座の開催や、親同士のつながりがもてる場、癒しの場の提供を心がけている。

(委員) (大学では) 15年前から学生サークル「栽培愛好会」が大学の農園で農作物を栽培、収穫調理する活動を実施している。外部との交流については、8年前からいちご農家、大豆農家などの農村女性グループとの交流を行っており、平成28年からは若手農家との交流も開始した。大学内では、以前より、食と農の地元学を行っている。さらに、全学部の2年生を対象に食育の講義を開講している。

(委員) (小学校で) 毎年5年生が(玄海地区の郷土料理である) のうさばを作ってふるまっている。また、学校のお祭りで、漁業協同組合に協力してもらい、子どもたちが魚をさばいて、自分でさばいたものを炭火焼きにして食べている。お祭りなので時間に限りがあるが、子どもたちみんな魚さばきできるようになって欲しいと思っている。

(大重会長) 地域コミュニティで、学生が健康づくりコーナーのお手伝いをさせていただいてい

る。また、毎年 8 月の子どもたち対象の「夏休みの課外授業」で、T シャツに体の中の絵を描く教室を行い、好評である。

(2) これからの健康づくり事業について 【資料 5】

(大重会長) 事務局から説明を

(事務局：有吉係長) 資料 5 には、今後の健康づくりに関するイベントと、厚生労働省の健康に関する月間などをまとめている。

(事務局：上田) 別添 5 は地域での健康づくりの取組みについてで、現在、コミセンの文化祭などに健康コーナーを設けて普及啓発を行っている。本協議会委員の方で、一緒に普及啓発を希望する団体があればいつでも声をかけて欲しい。

(大重会長) 全体を通して質疑はないか？

⇒特になし。

なければ以上で協議事項は終了、進行を事務局に代わる。

8 事務連絡

(事務局：柴田) 次回の健康づくり審議会の予定は、10-11 月頃を予定している。また、来年度は、健康むなかた 21 及び健康むなかた食育プランの中間見直し年度になっており、現委員の任期の終わる H32 年 1 月頃までに、中間調査と見直しを予定しているため、3 回程度の開催を考えている。

9 その他

10 閉会あいさつ

(篠原健康福祉部長) 委員の皆様方の所属団体が主体的に健康づくりに取り組んでくださっていることに感謝したい。市では、健康むなかた 21、健康むなかた食育プランに掲げている健康寿命の延伸を目指し、生活習慣病の発症予防等について重点的に取り組んでいくので、引き続き委員の皆様のご協力をお願いしたい。

以上